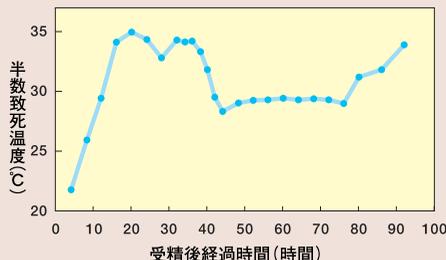


海生研では、魚類の様々な発育段階について生物影響試験を行っています。今回は、スズキ受精卵の温度耐性を調べた結果を紹介します。スズキは12~1月ごろにかけてたくさんの卵を産みます。それらの卵は孵化するまで海水中に浮遊しています。

図は、受精後約4時間経過した頃から孵化直前までのスズキ受精卵の発生段階毎の温度耐性を示しています。このときの産卵水温は15℃です。横軸は受精後の経過時間、縦軸は15分間高温に接触した時に半数が死亡する温度です。受精直後が最も高温に弱く、ついで受精後40時間から70時間頃の卵内で魚の形ができあがっていく過程の発生段階が高温に弱いことがわかりました。



財団法人海洋生物環境研究所は、発電所の取放水等が海の環境やそこに生息する生物に与える影響を科学的に解明する中立的な調査研究機関として、農林水産省、経済産業省、環境省の共管のもと、昭和50年に設立されました。

これまで「大規模発電所の取放水が生物に及ぼす影響の解明」「取放水域の環境調和技術の開発」「原子力発電所等周辺海域の海洋放射能調査」等の調査研究を国や民間からの委託をうけて実施しております。

海の豆知識 第17号

平成15年10月 発行

発行所

財団法人 海洋生物環境研究所

事務局 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-29 帝国書院ビル5階 ☎ (03) 5210-5961
 中央研究所 〒299-5105 千葉県夷隅郡御宿町岩和田300 ☎ (0470) 68-5111
 実証試験場 〒945-0322 新潟県柏崎市荒浜4-7-17 ☎ (0257) 24-8300

本海の豆知識に関するお問い合わせは、事務局までお願いします。

<ホームページ> <http://www.kaiseiken.or.jp/>

かいせいけん

海の豆知識

Vol.17

??? 魚のことわざ ???



魚のことわざ

(その16)

—カニ—

海とその生物にまつわる諺や格言についてお話し
しましょう。

今回のテーマはカニです。

カニは、沢、磯、深海と広く分布し、ケガニ、ズワイ
ガニ、ガザミなどのように美味で食用となる種もあ
り、諺や格言にも引用される身近な生き物です。



1

「カニは食ってもガニ食うな」

ガニとはカニのエラの部分。トリの肺臓をドリとい
うのと同じ。カニは旨いからといっても、エラのとこ
ろは不潔。食べて食べられないことはないが、旨くは
ないし、普通は食べないことを例とする。カニも程々
に食えの教え。

2

「蟹の甲は魔除け」

「蟹の甲は魔除けになる」として、門戸に掛ける風習が
あった。カニの甲羅には、その種類により色々な威め
しい彫刻紋があることからであろうか。

3

「蟹の死ばさみ」

「カニ」は一度挟んだら死んでも蟹を開かない。転じ
て、執念深い・欲が深い例え。

4

「蟹を食うなら手を汚せ」

食事には、それぞれのテーブルマナーがあるが、蟹
は上品ぶって食べても旨くない。親譲りの五本箸が
最高のフォーク。そして、様々な食べ方があるが、果
物と一緒に手も味も加えず、そのままの味が最高。
そして食べるときは「蟹現象」(カニを食べるときは、
脚などを折ったり割ったり、肉をほじくるなどして食
べることに追われ、会話がなくなって静まり返った状
態をいう)で、ただ黙々とひたすらに食べる。

5

「蟹の高這いは大雨になる」

普段は低地の砂地などにいるカニが、高い所や家
の中に這い上がって来るのは大雨になって低地が水
浸しになる前兆という。